

保守党党首にマルロー二氏 ケベック出身の実業家

カナダにおける連邦政界の最大野党・進歩保守党は六月十一日、オタワで党首選出大会を開き、新党首に弁護士実業界出身のブライアン・マルロー二氏(写真)を選出した。

新党首選出は、一月末の定例党大会でクラーク前党首(前カナダ首相)が信任を求めて辞任したあとを受けて行なわれたもので、クラーク氏は結局、四回目の決選投票でマルロー二氏に二百五十九票の大差で敗退した。



五十六代党首となつたマルロー二氏は、一九三九年三月生まれの四十四歳。ケベック州出身で、同州にあるラバル大学、セント・フランシス・ザビエル大学などを卒業、一九六五年に弁護士資格を得た。ジェームズ湾開発にからむ争議で活躍して有名になる。今度の党大会まで、アイアン・オア・カンパニー・オブ・カナダ(鉄鉱石会社)の社長のほか、鉄道、保険、放送、鉱業などの会社の役員をつとめて

いた。

連邦議会議員の経験はない。八月末にノバ・スコシア州で行なわれる補欠選挙に立候補しており、そこで当選して初めて議会入りすることになる。ケベック州出身の進歩保守党党首は初めて。

モントリオールとガスへに 五つの先端技術研究センター

ケベック州のモントリオール、ガスベ両地区に五つの重要な先端技術研究センターが、総額一億四千万ドルをかけて建設されることになった。

一番目のプロジェクトは、工費六千万ドルでモントリオールに建設される生物工学研究センター。同センターは、遺伝子工学、特性診断薬品、獣医用ワクチン、他の複雑な研究をするためのバクテリア等微生物の利用など、生物工学の有力分野の基礎研究や長期研究を行なう。

第二は、モントリオール北方のラバル市に建設されるオフィス・システム・ビジネス・コミュニケーション・システム研究センター。科学的オフィス・マネジメント技術やコミュニケーション技術の研究を行なう。

第三は、モントリオールの北、

サントテレーズにあるリオネル・グルール・カレッジに新設されるケベック・コンピュータ自動車産システム研究所。

第四は、モントリオールの西、ボワントクレールにあるバルブ・製紙技術研究センターの拡張。この拡張計画は、むこう十年間で紙・バルブ産業の技術開発と刷新を強化・多様化させるための業界、政府共同十年計画の一環をなすもの。

第五は、ガスベ沿岸のモンジョリ地区に海洋科学研究センターで、海洋資源とそのアクセスメント、海洋生物培養と資源開発、水位図の作成、海洋学・海洋生態学のプログラムを提示する。

カナダから「サイエンス・サーカス」 「触れて学ぶ」七十点を巡回展示

楽しみながら科学を学ぶ「二十一世紀の博物館」として世界的に有名なオンタリオ・サイエンス・センターの一部が、今秋、日本で公開されることになった。

オンタリオ・サイエンス・センターは、一九六九年、カナダ建国百周年を記念して設立されたオンタリオ州政府の機関で、七百種以上の常設展示物があり、カナダ国内および世界各地から年間二百万人が訪れている。見学者が展示物を触り、操作し、あるいは実験してみることができるといふのが、同センターの最大の魅力。

サイエンス・センターでは、展

示物の中から最も人気の高い約四十種七十点を選んで、「サイエンス・サーカス」という移動科学館をつくった。この「サイエンス・サーカス」は、過去数年間オンタリオ州内をまわっており、特に国



「サイエンス・サーカス」の内部

際児童年の一九七九年にはカナダ各地を移動し、あらゆる年齢層の入場者に科学の楽しさを広めた。こんど日本で展示されるのも、この「サイエンス・サーカス」一式で、内容は音声合成タイプライター、確率ゲーム、熱気球、人間や動物の胎児、手近なもので紙を作るペーパー・メーカー、静電気を利用して参加者の髪の毛をハリネスミのように逆立てるユニークな実験装置、人体のバランス能力測定など。日本では、展示物をコンテナ二台に収納し、楽しいイラストをほどこして、大型トレーラーで全国を巡回するという。

「サイエンス・サーカス」を日本に紹介するのは、株式会社シムコ(東京都港区元麻布三三六―一九)電話 〇三―四〇五―八〇五。

ワカサギ汚染騒動 ― シロで決着

カナダ産のワカサギは百パーセ

ント安全です――五大湖のひとつエリー湖でとれるワカサギが、猛毒の化学物質「ダイオキシン」に汚染されているのではないかと報道され、出荷停止や販売停止などの騒ぎとなったが、これは全くの杞憂だったことが分かった。

汚染の報道について、カナダ政府は早速、「エリー湖で漁獲されて日本へ出荷されるワカサギは、一兆分率(ppb)の精度で検査されているが、ダイオキシンは全く検出されていない」と汚染を否定、関係省庁や報道機関にその旨連絡した。

日本の厚生省でも独自に検査したが、ダイオキシンは検出されず、「輸入ワカサギに汚染はない」との結論を出した。これを受けて、水産業者や商社はワカサギの入出荷停止措置を解除。大損失をこうむつたといわれるカナダ側の業者も、疑いが晴れてひと安心といふところ。

マクルーハン賞を設立

ユネスコ・カナダ委員会とテレグロブ・カナダ(国際通信公社)は、「メディアはメッセーgerである」などのユニークなコミュニケーション論で知られる故マーシャル・マクルーハン教授を記念して、「通信メディアと通信技術の社会的影響、特に文化的、芸術的、科学的活動に対するその影響についての理解を深める上で大きな貢献をした研究や行為を表彰する」国際的な賞を設立した。